

作家略歴（五十音順）

伊津野 雄二 いづの ゆうじ

1948（昭和23）年～

兵庫県に生まれる。東京都立戸山高校を卒業後、愛知県立芸術大学彫刻科に進むが中退。1975（昭和50）年に知多工房を設立、木彫、家具木工芸を手掛ける。1980年代より建築、装飾美術を手掛けるようになる。現在は岡崎市の山間にアトリエを構えて具象彫刻を追求し続けている。

大森 運夫 おおもり かずお

1917（大正6）年～2016（平成28）年

愛知県八名郡三上村（現・豊川市三上町）に生まれる。昭和12年岡崎師範学校を首席で卒業。昭和14年広島高等師範学校へ入学するも肺結核を患い中退、郷里に戻り療養生活を送る。昭和25年豊橋在住の画家中村正義と出会い、強い影響を受け日本画をはじめ。新制作展、日展に入選し、昭和33年第1回中部日本画総合展にて最高賞を受賞する。昭和37年第26回新制作展にて新作家賞を受賞。その後も新制作展に出品を続ける。昭和49年新制作協会から日本画部が独立して創画会が発足、以後は創画会に出品。昭和50年第3回山種美術館賞展で大賞を受賞。昭和53年家族とともに千葉県船橋市へ転居。昭和55年日本秀作美術展に出品、以後数回出品を重ねる。昭和61年紺綬褒章を受章。豊橋市美術博物館はじめ全国の美術館で展覧会が開催される。作品の対象は年代により変化するが、一貫して人が本来持つ「心の姿」を追求した。

鈴木 由紀子 すずき ゆきこ

1947（昭和22）年～

愛知県額田郡幸田町に生まれる。昭和46年白士会展で初入選。昭和47年、昭和52年豊田市民展で市長賞を受賞。昭和52年愛知県県文連展で知事賞を受賞。昭和53年岡崎美術展で岡崎市教育委員会賞を受賞。岡崎美術協会会員に推挙される。昭和60年、平成2年、平成4年、平成5年白士会準会員賞を受賞。平成7年白士会会員に推挙される。平成10年、平成16年、平成20年、平成22年白士会会員賞を受賞。岡崎市内のギャラリー一等で個展を開催。現在、岡崎美術協会理事。

藤井 達吉 ふじい たつきち

1881（明治14）年～1964（昭和39）年

碧南市に生まれる。明治31年18歳の時に名古屋の服部七宝店に入社し、明治38年25歳で米国ポートランド博覧会出品のため渡米する。明治43年に上京し、洋画家を中心に結成されたヒュウザン会ははじめ、国民美術協会の創立に参加。装飾美術協会、工芸団体無型の結成、官展への工芸部門の設置運動など、工芸部門で先駆的役割を果たすも、中央との意見の相違から次第に中央美術界から退き、郷里の工芸振興に力を注いだ。瀬戸の陶芸、小原の和紙工芸などの発展に貢献した。晩年は一所不住であったが、岡崎で死去した。